

救急隊は救急患者、特に重篤患者を適切に救急医療機関に搬送出来ているのか？



【平野質問】 救急搬送先の病院は基本的に輪番制だが、病院によっては、輪番以上に非番の件数の方が上回っているところがあり、非常に違和感があります。例えば、脳外科の患者さんの場合、MRIが動いてなくても救急搬送を受け付けている等、診療体制において問題もあり～救急患者は全て受け入れる方針であると、この度情報提供があり、異常な病院体制だと感じます。そこで、一般論として救急隊の対応についてお答え頂きたい。

- 神戸市消防局の救急隊は搬送病院に専門の医師・看護師がそろっているのか？
特に重篤患者を適切な救急医療機関に搬送出来ているのか？
- ◎ 搬送病院として必要な設備や人員などを定めた基準のチェックリストがあるのか？
その場合、神戸市が病院に確認しているのか？

小原 副市長：救急隊の搬送先については、救急性、専門性等を考慮して、病院情報を基に症状に応じた医療機関を選定しています。選定した医療機関へは、承諾を得られた場合には搬送し、傷病者を引き継いでいる。

脳疾患や、心筋梗塞など、重篤患者については、消防法に定める傷病者の搬送及び受け入れの実施基準に基づき、医師等で構成する検証会議の場で運用状況を半年ごとに確認している。救急病院につきましては、救急医療についての知識、経験を有する医師が常時診察に従事すること、また、救急医療を行うために必要な設備を有することなどの基準が定められています。神戸市の保健所では、救急病院の認定に必要な設備や人員を備えているかについては確認しています。引き続き、傷病者を適切な医療機関に搬送するとともに、適切な医療処置が受けられるよう、救急体制の充実強化を図ってまいりたいと考えております。

平野 再質問：命を守るという観点から、特に重篤患者に関しては、救急搬送後、適切な処置がなされたかのチェック・検証体制を強化し、再搬送も含め柔軟に対応すべきだが、本来、救急隊の判断だけでは限界があり、健康局がもっと踏み込んで対応していただきたい。

小原 副市長：救急医療については健康局が所轄しており、課題があれば適切に対応してまいります。

外国人労働者の積極的な受入れに向けたワンストップ窓口の設置が必要 国は外国人の受入れを積極的に進めようとして特定技能1号、2号の制度を

【平野 章三の質問】 神戸市の人口減少の対策とともに労働人口をどう確保していくかは喫緊の課題であります。国では外国人の在留資格のひとつである特定技能1号、2号の制度を活用して外国人受入れを積極的に進めようとしています。神戸市では明確な政策方針もなく、現在日本語教室は市長室、企画調整局、経済観光局、地域協働局がばらばらに実施しています。そこで、外国人労働者が必要とする各種サービスは仲介業者を介さずとも、神戸市独自で外国人の相談を総合的に受け付けるワンストップ窓口を設置し、安心と安全なイメージを打ち出すべきだと思います。全国に先駆けた施策として神戸は受け入れ都市であることをアピールしてはどうですか？

久元市長：外国人の市民の方は日本語が不自由な方もいらっしゃるわけですから、できるだけ相談をする窓口は一本化する方がいいというふうに思いますので、そういう観点から、そういう意味でのワンストップ窓口の設置を検討

副市長：今後も取り組んでいきますし、そのような中で、どこを窓口にするか検討してまいりたいと思います。

【平野 章三の意見】 市長、副市長ともワンストップ窓口の考え方には非常に前向きな答弁であり、神戸市が今後他都市に先駆けた施策として打ち出して頂きたいものがあります。

返却ポスト設置の基準は？ 山陽舞子公園駅にあった返却ポストを図書館がある垂水駅になぜ置きかえたの？

【平野 章三質問】 図書館の返却ポストについて、設置基準や利便性を考えていないと指摘していたがあれからどうなったのか？

【図書館長 答弁】 以前から委員に指摘を受けており、設置基準について見直しを進めております。返却ポストに限らず、図書館サービス全体の中でどのような地域とサービスを提供することが最も効果的・効率的かと考えている。データに基づいて検討を進めており、もう暫くお時間頂きたいと考えてございます。

あれから何年経っているのか～ 市民の利便性向上のため早急に検討願いたい

皆さん ストーリーテリングをご存じですか？

【平野 章三の質問】 図書館などで絵本の読み聞かせだけでなくストーリーテリング（語り手）の人材育成の仕組みを作って頂きたいが、いかがですか？

【図書館長 答弁】 語り手の言葉に耳澄ませ、場面を想像しながら物語の世界を楽しむストーリーテリングの魅力をもっと市民に広く知って頂きたいし、図書館もその技術の継承を支える立場と考えます。図書館のおはなし会も、ボランティアによるストーリーテリングを読み聞かせとともに実施していますが、人材育成までは今のところ行っていません。今後、ボランティアスキルアップ講座の中に入れ込むことができないか考えていきたい。他都市の取り組みもよく調べて研究したいと思っております。

【平野 章三の意見】 子供たちにとって重要なことです。ぜひご検討下さい！

いつまで続くの!! 教育委員会事務局の対応!

総合教育会議で指摘の問題は学習用パソコンを授業でほぼ毎日使ったとの回答は
小学校で**56.4%**と、前年度から**9.7ポイント減少**
中学校は**59.5%**と、**10ポイント減少**する結果がでたことです。しかし 児童・生徒への聞き取りでは、小学生が**16.1%**、中学生が**15.3%**と

これが実態で学校の認識と大きな隔たりが明らかに!

この問題は、教育委員会事務局が令和3年4月、みんなの学習クラブ(コスモトピア)を3年の公費契約期間中であるにもかかわらず、タブレットドリル(東京書籍)を保護者負担で導入させた結果、不具合だらけで大混乱となった。令和4年3月、各学校での活用状況の調査で、タブレットドリル(東京書籍)がほとんど活用されていなかったことが判明したにもかかわらず、次年度も学校長に命じ、現在も継続的に利用させている。

とにかくログインしろ!

教育長 笑ってる場合がいまっせ 不謹慎!!

【平野 章三 質問】 教科書に準拠しない問題多きタブレットドリルを強制使用させ続けていることで、学習用パソコンの活用頻度が後退する結果を招いたのではないかと?

【教育長 答弁】 結果は深刻な問題と受け止めている。全校にアンケート調査を行い、改善に向け全力で取り組む。ただ、デジタルドリルは子供たちが家庭学習で活用する機会が多いことから、授業中における学習用パソコンの活用の問題とは直接関係ないものと考えております

【平野 章三 再質問】 教育委員会事務局は事態を何ら検証することなく、校長さんたちを呼び出し「学校の努力不足」「市長や教育長が怒っているから とにかくログインしろ! タブレットをとにかく開け!!」こういう指示をしていたようだが、それを校長や先生が、児童・生徒に対して、とにかくパソコン開け! 数字だけ上げる! そんなこと言えますか? 教育委員会事務局がこんな最低なことを言ってるが… 市長、これどう思いますか?

【市長の答弁】 総合教育会議で、このパソコンの利用について、私が申し上げたのは、しっかりと現場の意見を聞いて、納得感があるやり方で進めてほしいと申し上げたつもりです

【平野 章三 再質問】 市長の意向は現場の意見を聞いて そのとおりですよ～ やはり今回のような圧力的な指示は市長の思いとも違うのでは?

【教育長 答弁】 デジタルドリルの選定は、校長の代表、外部の有識者の意見も聞きながら、毎年比較検討を行い公正公平な審査の末、選定していますが、活用状況については改めてしっかりと調査をし、把握する必要があると考えています。今後もデジタルドリルを十分活用していく必要があり、現場の意見もよく聞いた上で対応を考えていきたい

教育長答弁に 平野 章三は反論!
★ 教育長のデジタルドリル選定は公平・公正と発言しているが教育委員会事務局独自で指名した方々の意見を聞いただけで本当の意味での第三者の委員会で選定されたわけではない。事務局内部の馴れ合い選定のように非常に残念

学童保育と教育委員会との学習支援の連携へ! 【学力】大きな学校間格差! 改善しようとしているのか?

学童保育は小学校1年生で約50%、3年生までの平均で約40%という非常に多くの児童が利用されているので、学力向上に向けた学習支援すべきで、放課後学習支援教室、特に**がんばるもん教室**を参考に～「こども家庭局」に質問すると、こども家庭局：「教育委員会と一緒に頑張っていききたい」と答弁。

教育委員会事務局長：「場所の確保に学校施設を有効に使い、学童保育の学習支援に当然対応します」～との答弁が、進捗状況をお伺いします。

小原副市長：具体的に教育委員会と学童保育における学習支援の連携を、教育委員会と協議を始めたところですが、**がんばるもん教室**における学校との協力事例なども参考にしながら、学童保育の学習支援を行っている職員を集めて、これからの放課後学習のあり方などについて、教員による研修、意見交換を行うといった案が出てきており、実施方法について検討を進めていきたい。

長田教育長：学童保育との連携という中で教育委員会における学習支援の取り組みについては、具体的には、学年ごとに習得すべき内容、あるいは放課後学習に適した学習内容や、学習用パソコンを活用した家庭学習の取り組み方等、学童保育の指導員等に、研修等で学習支援を主体的に取り組みたいと考えています。

平野 章三の質問～ 全国学力・学習状況調査、神戸市学力定着度調査の結果～ 学校間学力格差が大きすぎ! 改善をどのように行っているのか?

教育長の答弁 学校別には平均正答率の高い学校と低い学校との開きが大きいことは事実であり、学習状況に課題があります。個別指導や放課後学習など、一人ひとりの学習状況を把握した上でそれぞれの課題に応じたきめ細やかな指導に努めてまいりたい。

平野 章三の質問 5教科500点満点で、1教科最大35点の差があり、学力の高い学校は平均377.5点、低い学校は203.5点と小学校で174点という大きな差があるのです。過去3年間の小学校4年、5年、6年、中学校も含めたデータを見ても、やはり1教科30点から35点近く開いており、この開きをどう思われますか?

教育長の答弁 学校間での学力格差が非常に大きく、これは看過できない。生徒一人ひとりの効果的な学習支援のサポートを今後もしっかりと努めたい。

平野 章三の質問 ただ、過去3年間全然改善されていないのであります。教育委員会が学校に改善計画を指導しているようだが、形だけで実態は動いていない。何かいちはん必要かという～放課後学習、いわゆる「**がんばるもん教室**」などをもっと参考にしながら、今後の課題として力を入れてもらいたいが、如何ですか?

教育長の答弁 ご指摘の放課後学習はしっかりとやっていかねばいけません。学習指導員の対応も含めてこれまで以上に取り組んでまいりたい。

神戸空港国際チャーター便はインバウンド・アウトバウンドが必要!

【平野 章三の質問】 神戸空港が国際チャーター便を確実に誘致し、その先の国際定期便の就航につなげていくためには、神戸の魅力ばかりにこだわらず、発想の転換をして神戸空港の高い利便性を発信し、より広域的な視点からインバウンド・アウトバウンドの取組として、海外のエアラインや旅行会社など積極的な商品開発をお願いする必要がありますが、如何でしょうか。

もう1点、広域的な視点として、昨年関西3空港懇談会で神戸空港の在り方として、神戸市以西の新たな市場開拓に積極的に取り組むことが明記された。重要な合意事項であることから、神戸空港の持つ市場の大きさを強く発信しなければなりません。そこで、どのようなエリアまで考え取り組んでいくのか併せて伺います。

【副市長の答弁】 神戸空港は都心に近く地方空港には12路線持っており、新幹線や海上交通が充実した高い利便性を持つ空港であり、空港利用者を広域的に捉えインバウンド、アウトバウンド双方の需要開拓を行うことが非常に重要であります。

国際チャーター便は旅行会社が中心で旅行商品の開発を行うことから、現在、各国の航空会社や旅行会社を訪問し、観光ニーズや嗜好傾向、訪日旅行商品の実情などをヒアリングし、誘致に向けた調査活動を行っているところです。今後、国内外の航空会社や旅行会社に対して、新たな神戸のまちの魅力に加え、市場の大きさなどを積極的にPRし、魅力的な旅行商品開発を促し、2025年の国際チャーター便、さらには2030年前後の国際定期便の就航につなげていきます。

2点目のどのエリアまでを視野に入れているのかという点は、姫路市や豊岡市など兵庫県北西部や淡路島3市、高松市、小豆島など、インバウンドから人気の高い瀬戸内海エリアの中四国方面までが神戸市以西の新たな市場開拓の主なエリアになると考えています。



神戸市が令和元年連携協定を結んでいる淡路島3市との連携は非常に重要!

【平野 章三の質問】 神戸空港の国際化は、関西経済全体の底上げになり、協定を結んだ淡路3市との連携は今、非常に重要となります。神戸の魅力づくりをきっかけに、インバウンド・アウトバウンド対策として神戸空港島、メリケンパーク、須磨海岸と淡路島との海上交通を結ぶことで、神戸市、淡路3市の連携が活性化に繋がると考える「音楽の街こうべ」として、文化・スポーツ局長も「街中や海岸なども、音楽であふれるようなまちにしたい」と発言しているが常設の音楽イベントステージがないのが現状。

そこで、ほとんど活用されていない旅客施設「かもめりあ」を音楽イベントステージに整備すべきと9月議会で提案しました。

一方、24年6月オープン予定で、多くの来場者が見込まれる神戸須磨シーワールド南側の須磨海岸に音楽イベントステージ設置の提案したところステージ設置の可能性も出てきました。

公的資金投入によるリスクの低減のため、民設民営の可能性も含めて検討すべきと考えますが、見解をお伺い致します。



高品質なサービスが提供出来るスーパーヨットも寄港できるマリナー整備を目指すべき!とR5.9.26に委員会にて提言

【久元市長の答弁】 音楽イベントステージ市長答弁で大きく前進!かもめりあ遊覧船の発着場所としての機能を維持しながら、ピアノの演奏会など小規模な音楽イベントなどが開催されているが、さらなる一層の活用を検討する必要があると認識をしております。

次期指定管理者からは、メリケンパークの大規模イベントに合わせ、「かもめりあ」と一体となった連携広場などでの音楽イベントの同時開催の提案もあり、今後、かもめりあも含めたイベント実施について、指定管理者とともに取り組んでいきたいと存じます。

「かもめりあ」や須磨海岸における野外ステージにつきましては、イベントの規模やステージの規模設置手法、運営手法について、今後、民間事業者へのヒアリングを行い、可能性につきまして意見交換を行っていきたくと考えております。

音楽が溢れる街づくりには、環境整備や場の提供といった仕組みづくりが重要です。引き続き、メリケンパークやアリーナを中心に大規模な音楽イベントの周知を指定管理者や事業者と連携しながら進め、民間事業者の意見やニーズを聞きながら、賑わいのある音楽の街の実現に向けて取り組みを進めていきたい。



神戸市とワーナーミュージック・ジャパンとの事業協定は音楽業界初!

長年言い続けてきた「音楽のまち神戸」が神戸の魅力として動き出す!!

==== 魅力ある神戸のまちづくりとして ====

いつでもどこかで楽しめる『音楽のまち神戸』の活動を続けてきました!そして神戸市とともに、全国初の官・民共同主催のバンドコンテスト Battle de egg (若者支援・育成・応援プロジェクト)を立ち上げそのオーディションも11回開催してきました。

神戸市長も『音楽やグルメを楽しみ、にぎわいづくりを着実に進めていく』と明言し、神戸市も音楽のまちとして ~ 大きく動き出しました!

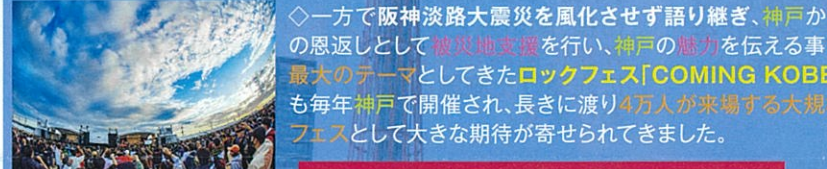


平野 章三は、かねてより「神戸のまちの魅力」とは何か?と問い続けて、◇本会議で「神戸のまちの魅力」を一言で答えて下さいと質問すると!答弁は2分10秒も…なが〜い説明で「海があり山があり」とこれでは対外的にインパクトのある発信はできません!

約13年前初めてロックライブと出会い、そこで熱気あふれる若者たちのライブを楽しみ、その後のバンドメンバーたちの礼儀正しさに感動しました!



このような素晴らしいロックライブと若者たちを神戸で育てるような企画を神戸市に申し入れた結果、全国で初めて民間と行政が共催したロックバンド・コンテスト「Battle de egg」を立ち上げることに開催!音楽を通じて若者支援や賑わい創出に取り組むことに…無事毎年開催。昨年で12回目の開催となり、全国から400バンドほど応募があり、年々注目を浴びようになってきて、3月には13回目の開催を迎えます。



◇一方で阪神淡路大震災を風化させず語り継ぎ、神戸からの恩返しとして被災地支援を行い、神戸の魅力を伝える事を最大のテーマとしてきたロックフェス「COMING KOBE」も毎年神戸で開催され、長きに渡り4万人が来場する大規模フェスとして大きな期待が寄せられてきました。

そのワーナーミュージック・ジャパン(WMJ)も、神戸市出身のバンド「Fear, and Loathing in Las Vegas」(フィアアンドローザングインラスベガス)が主催する音楽フェス「MEGA VEGAS 2023」を既に開催し、宿泊や交通機関などを組み合わせたチケット販売などを行うことで「神戸のまちの活力」へと貢献してくれました。

神戸市は「音楽の街こうべの魅力」を打ち出すなら!

【平野 章三の質問】 音楽の街としてライブが可能な野外ステージなどが必要と訴えてきたが、文化スポーツ局は動いていないのではないのでしょうか?

一方で大阪駅前「うめきた2期」では1万人規模でイベントステージの事業計画が進んでいる。確かに神戸では、さんきたアモーレ広場や三宮プラッツなどで演奏しており、ノエビアスタジアム、三宮クロススクエア、須磨海岸、かもめりあ、にも今後、野外ステージとして検討できる可能性もあります。しかし本来、文化・スポーツ局が積極的に事業局に申し入れ、事業化に進むべきと思うが如何でしょうか?

【文化・スポーツ局長の答弁】 街中や海岸など「音楽であふれるようなまち」にしたいので、観光客の多いメリケンパークのかもめりあ東側なども所管の港湾局にすぐにも当たりたいと思ってます。須磨海岸も可能性があり、クロススクエアなども含めて三宮整備にあたりストリートライブなど都市局と共有しており、積極的に入っていきたくと思っております!

【平野 章三の質問】 次に新文化ホールについて伺います。新文化ホールは市街地の一等地なので、事業費は350億円と高額な施設になり、事業収支の考え方を伺いたい。

【文化・スポーツ局長の答弁】 確かに多額の投資を伴いますので、営利を目的の事業を呼び込み、多くの利益により市民利用を安く繋げていくことも考えています一方で投資として、戦略的に神戸に人が来てもらえるような、自主事業を打つなど、バランスをしっかりと考えていきたい。

ベガス名所で日本人初の単独ライブ

神戸市のライブハウスを運営する「VINO」が単独ライブを行うラスベガスの「フリンジ・ストリート・エクスピリエンス」のステージに選ばれ、Battle de egg実行委員会提供



神戸空港国際化に向けた将来像を提案!!



施設概要
・主要用途：空港旅客ターミナルビル
・延床面積：約14,600㎡
・建築面積：約12,900㎡
・建物階数：地上2階
・構造種別：鉄骨造

新ターミナル 外観イメージ



2024年2月22日
本会議



航空機産業の誘致

元大手企業が参入していることに加え、先端技術分野も含め、裾野が広く波及効果も大きいことから、「航空機産業都市」として神戸経済の活性化にも寄与すると考えますがいかがですか？

●平野質問：神戸空港は関西エアポート神戸(株)の運営に期待しているが、神戸市としては、**神戸空港島の将来像**をどのように描こうとしているのか？現在のジェット旅客機の運航機数は旅客需要の増加に伴い今後20年間で約2倍に増加するとの見込みもある中、神戸空港島に航空機整備専門会社などをはじめとする**航空機産業を誘致できないか**。航空機産業は地元大手企業が参入していることに加え、先端技術分野も含め、裾野が広く波及効果も大きいことから、「航空機産業都市」として神戸経済の活性化にも寄与すると考えますがいかがですか？



○市長答弁：神戸空港・空港島の企業誘致については、最先端の技術を有する航空機関連産業や、カーボンニュートラルの技術を有する企業など、様々な分野の市場調査を行い、幅広く検討している。その中で、特にアジアを中心に**世界の航空旅客需要が増加し**、2042年には2019年の2.2倍の増加が見込まれており、航空機の整備を行う、**MRO**※についても需要が見込まれております。神戸市内には、航空機の主要な部品の製造を手掛ける世界有数の技術を有する大手企業、川崎重工業、三菱重工業、新明和工業などが集積しているなど、**航空機関連産業はまちづくりの戦略として重要な要素**。神戸経済の成長に最大限寄与するよう、戦略的な神戸空港等の将来像を描いていきたい。

※ Maintenance(整備)、Repair(修理)、Overhaul(オーバーホール)の略で、航空機の整備及び修理に関わる事業

プライベートジェットの受入施設の誘致

●平野質問：神戸空港において、プライベートジェット専用の駐機場・格納庫・機体整備・運航支援等の一体的なサービスを担う日本初の受け入れ施設が整備されればVIPの受け入れ拠点となり、神戸空港の知名度が世界に発信されることとなります。また関西3空港懇談会においても「今後の国際化に伴って神戸空港のプライベートジェット受け入れに一層の推進をすること」と明記されています。その後の公募に向けた取り組み状況について、お伺いします。

○市長答弁：プライベートジェットは欧米を中心に世界的に市場が拡大し、将来、需要の高まりが見込まれることから、**神戸空港において受け入れ環境を整備していく**。現在、関係事業者へのヒアリングを実施しております。2024年度に向けた取り組みを進めてまいります。



国際チャーター便の誘致施策



●平野質問：先般、一部報道で、「神戸空港の国際チャーター便誘致方針の見直し」という記事がでていました。2024年度予算案ではエアライン誘致活動費が計上されているものの**具体的な予算は計上されていませんが**、報道にある「見直し」というような段階ではないと理解しています。こうした報道は国際チャーター便誘致の機運が高まる中で、誤ったメッセージを国内外に発信することになりかねません。国際チャーター便誘致に向けては、報道にあるような単なるインバウンドの視点だけでなく、**双方向の需要創出につながるような経済交流や国際交流のアウトバウンドの強化**、さらにはインフルエンサーの活用など、**神戸空港の国内外の認知度向上や国際化の機運を醸成していき、エアラインのニーズも踏まえながら、トータルの誘致戦略として取り組まなければ、国際定期便への安定的な就航にはつながらない**と思うのであります。ただ、国際チャーター便が解禁される大阪関西万博開催までの時間的な猶予があまりないので、予算措置を含め、今後のスケジュールなど、方針をお伺いします。



●今西副市長：国際チャーター便の誘致は、**2025年に向けて着実に進めており、誘致方針を見直したものではありません**。神戸空港はエアラインなどから将来性など高い評価をいただいております。2025年の就航に向け引き続き交渉を進めたい。誘致の方向性は、ご指摘のように、**双方向の需要創出が重要**。インバウンドのみならず、アウトバウンドの強化や地域の魅力を理解いただくためのエアラインなどへのプロモーション、神戸港を拠点としたクルーズ連携など、**様々な取り組みを総合的に組み合わせる**ことで進めていきたい。また、エアラインのニーズを踏まえ、どのような対応が必要か十分に検討します。今後とも、誘致先となる各国と、文化や経済、スポーツなど幅広い分野で交流連携をして、**2025年の国際チャーター便やその先の国際定期便の安定的な就航に向けてエアラインなどと交渉を進めてまいります**。



厚生労働省がノーリフティングケアを評価！ 神戸市にも窓口設置が必要

平野はかねてより神戸医療産業都市とともに介護産業にも力を入れていくべきと提案し、神戸市では、介護テクノロジーの導入促進に支援を開始したところ、大手企業の新たな産業への展開とともに医療やヘルスケア・介護分野の技術利用にも動き出しました。

加藤前厚生労働大臣も、ノーリフトは次世代型の介護技術として一億総活躍案のなかに組み込まれ、厚生労働省として腰痛防止へ来年度からノーリフティングケアを介護報酬で評価していく方針を打ち出されました。今や医療と介護の分野は切り離すことなく、一体的かつ先進的な介護テクノロジーの事業化に大きな市場としてのニーズができました。そこで、介護産業としての窓口設置を提案します。

もう一点、人材確保の問題です。病院・福祉関連施設の人材確保が非常に難しく、派遣会社に多額の支払いを余儀なくされていることもあるそうです。ところが、ノーリフトを導入されたところは仕事の負担が少ないため退職する方が少なく、人材派遣会社への余計な支払いがないそうです。さらに、看護・介護師さんが、オーストラリアでノーリフトの研修を受け、その後リーダーとしてスキルアップしたいとの要望もあり、研修も含めた人材確保が今、求められています。特に政府は、外国からの人材の受け入れをめくり、現在の技能実習制度および特定技能制度の見直しに向け「技能実習制度」は廃止し、新たに「育成就労制度」への改善に向け、関連法案を今国会に提出する方針であり、神戸市もこの制度を活用すべきであります。

そこで介護テクノロジー導入促進プロジェクトのなかに神戸市として人材交流窓口をつくり、民間事業者に委託して取り組めるよう出来ないか提案しています！



令和6年度予算案に、東南アジアにおける新たな拠点設置の関連予算が計上

平野意見：在留資格 特定技能等の人材を神戸に呼び込む機能も付与すべき



4 市内産業の活性化	
115億2,900万円（うち国庫支出金 10億4,000万円）	
【改正】神戸高等における地域協創テクノセンター（仮称）の整備（国庫）	（70,000千円（うち5年度2月補正 70,000千円））
・地元企業との交流と実務的な研修等促進の拠点として、地域協創テクノセンター（仮称）を新築（8年度設計、財源後決、8年度設計）	
【改正】オープンイノベーションの推進（29,500千円）	
・市内企業と全国のスタートアップ・企業による新事業創出を目的とした推進実務型プログラムの実施	
・地場産業の活性化や新たな課題に取り組む市内企業が参加するコミュニティの運営	
【新規】東南アジアにおける高度人材の獲得とビジネスマッチングの推進	（13,000千円）
・経済成長が著しい東南アジアにおける高度人材の確保、ビジネスマッチングに資する拠点設置の検討	
【改正】大学の経済学的知見を活かした政策立案機能の充実（5,000千円）	
・大学の経済学的知見を活用し、効果的な政策立案・効果検証を実施	
・中小企業等の経営基盤強化支援（国庫）	



政府は外国人の在留資格のひとつである**特定技能制度**を活用して外国人の受入れを積極的に進めようとしており、別の企業への「転籍」も可能となる新たな**育成就労制度**の創設も検討しています。特定技能の1号認定では最大5年在留することができ、2号では在留期間に上限なく、要件を満たせば配偶者や子供の家族帯同が可能です。本市においては、ノーリフトケアの取り組み等、地元の大企業が介護現場でも活用可能なロボット開発を進めるなどの事業展開を始めていますし、多くの中小企業の人手不足も深刻であることから、様々な分野で幅広く有能な外国人人材を神戸に呼び込むような工夫も拠点設置とあわせて検討すべきと提案致しました。今後、神戸市が海外からの人材確保の窓口を設置すれば、地元中小企業などの雇用にも貢献でき、将来は人口減少対策にもなると思いますので、引き続き平野は神戸市に提案してまいります。

やっと動いた対応...でも部活動のことは？ アリバイ作りのみ？

神戸市教育委員会だより
令和6年1月発行

教員の長時間勤務の解消にご理解・ご協力を

学校における学習の増加、高齢化社会の進展など、学校を取り巻く社会環境が大きく変化する中で、保護者の皆様、地域に在住する皆様から学校や教員に対するご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。学校現場において、長時間勤務は、ご協力を賜りますようお願いいたします。

●神戸市教育委員会の取組方針（この学校の取組）

「多岐にわたるご理解とご協力を、学校・家庭・地域が連携して実現することを目指します。」

●教員の長時間勤務

「学校は、児童・生徒の学習活動の場であり、子どもたちの成長を支援する場であるとともに、保護者の皆様、地域に在住する皆様から学校や教員に対するご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。」

●全員の業務の効率化

「全員の業務の効率化を図り、教員が本来の業務に専念できるよう取り組んでいます。」

●教員の負担軽減

「教員の負担軽減を図り、教員が本来の業務に専念できるよう取り組んでいます。」

●地域連携の推進

「地域に在住する皆様から学校や教員に対するご理解とご協力を、心よりお願い申し上げます。」

2024年1月、神戸市教育委員会より「教員の長時間勤務の解消に向けた取り組みへの協力について」を、保護者向け連絡ツール「すぐる」により一斉配信がありました。ただ、働き方改革の大きな取り組みの一つに**部活動**があり、運動部活動の地域移行を目指すとしていたことはその後どうなっているのか？

学校の働き方改革で教員の長時間労働の温床となっていたが、現在は働き方改革の方針により義務ではなく、**部活動をやめる**こともできる状況であり、学校教育の一環としての部活動といった捉え方を改める方向に向かっています。ところが、神戸市教育委員会は「教育委員会だより」などの広報や、小学校時に取り組んできた種目（運動部）が、在籍する学校にない場合の対応として「拠点校」で部活動が行えることを示す程度（いわゆるアリバイ作り）で、未だ今後の方針について具体策を示していないのが現状であります。そこで**教員の負担減、生徒にとって望ましい部活動環境の構築を具体策**として平野が提案するのは、メジャーなスポーツだけではなく、例えば、神戸市スポーツ協会に加盟しているスポーツの中で既に地域が支えた活動になっているところは**地域部活動**として位置付け、地域移行に順次認めていくなど、できることから動き出すように申し入れました。

メリケンパーク周辺のウォーターフロントの整備と回遊性 今後に期待～♪

昨年、神戸空港国際化によるインバウンド対策の一つとして、神戸空港島、メリケンパーク、須磨海岸と淡路島との海上交通を結ぶことで、神戸市と淡路3市の連携が大きな魅力づくりに繋がると提案。さらに、ほとんど活用されていない閑散とした旅客施設「かもめりあ」を音楽イベントステージなどに整備すべきと提案しました。重要なのはウォーターフロントエリアで単体的に整備していくのではなく、**民間委託も含めて一つの街づくりとしての構想**を打ち出した上で、それぞれの施設整備に取り組んで頂きたいのであります。

もう一点、ハーバーランドから新港第2突堤周辺までの**回遊性に繋がるアクセス機能**の整備が必要であります。例えば、2019年に提案した【ディズニーシー・エレクトリックレールウェイやゴンドラ など】そのものが観光施設にもなり、ウォーターフロント独特の凹凸（アウトツ）地形に対しても交通アクセスとして活用すべきと申し入れています。

